茜の空

令 和 ５年１月１６日
練馬区立石神井南中学校
学 校 便 り １ 月 号

「成人式での再発見から４０年」

校長　澤井　裕一

あけまして、おめでとうございます。世界が、平和で健康で過ごせる年となることを祈願して新年を迎えました。４０年前の平和な時代、昭和５８年１月１５日に、私は成人式に参列しました。

当時は、世の中に仕事が溢れていました。私は、アフター成人式でも、午後から学習塾のアルバイトに向かいました。午前の式典の講演者は、有名な漫画家の手塚治虫先生でした。その理由を両親に聞いたら「我が家の裏に住んでいる東久留米市民」である事を生まれてから初めて知りました。

講演で先生は、医学博士でありながら、両親と親せきの方々の医者への期待とは異なる漫画家になった理由を話されました。「世の中のために、役に立てることは、戦争をなくすこと」昭和２０年頃の願いでした。「鉄腕アトム」や「ジャングル大帝レオ」等の作品から、「争いを起こさない」訴えをしていることを学びました。「令和の今の時代に活躍されていたら」と仮定したら、感染症で辛い時代であるから医師になってコロナと闘っていたかもしれないと思います。しかし、最近の報道からは平和的な国家の大切さから、やはり「漫画家で活躍された」とも考えさせられます。

私自身も、小中学校時代まで勉強ができなかった自分の体験があり、「『わからない気持ち』が、わかるから」と、社会の役に立てるのではないかと考えて数学の教員の道を進路選択した気がしています。

当時の教員には、部活動への情熱が求められていました。柔道、野球、陸上競技、ラグビーで鍛えていただいた人との出逢いに感謝して進路が拓けました。自分の事だけを考えて仕事をする人が増えれば、社会は格差が発生して厳しい状況になります。社会の形成者として求められている課題に向き合うためには、自分の力を現状の世の中でどのように発揮するかを考えることです。主体的に行動できる人を育成するのが学校であると思います。本校の方針「確かな力、優しい心、個を輝かせて社会のために」を改めて伝えさせていただき、新年を迎えての挨拶といたします。

道徳授業地区公開講座

１月１４日土曜日は、第二土曜授業公開に併せて道徳授業地区公開講座が開かれました。この日は全ての教員が、学年内で新しく編成した４～６のグループの生徒とともに、それぞれの題材で授業を行いました。生徒は普段とは異なる仲間や先生との道徳授業となり、特別な時間になったようです。

生徒からは、『人権について考えよう』と題してハンセン病患者のことを扱った授業では、「どんなこともまず知ることが大切だと思いました。私もイメージだけで決めつけてしまうことがあるのでそれが本当に正しいことなのか知ったうえでどうしなければいけないか考えていこうと思います。」という感想、『スカイツリーにかけた夢』と題した授業では、「不安な気持ちがあっても、恐れずに自分を信じて挑戦していきたい」、そして『命と向き合う』と題した授業では「生きる上で人に迷惑はかけられない。ただし、そのせいで自分のやりたいことや行動したいことが縛られるのは思い切り生きるとは言わないと思う。人に頼って自分のやりたいことや伝えたいことをするのが、人との関わりでもあると思うし、生きるということだと思う。」といった感想がありました。

テーマはそれぞれ異なりましたが、生徒は授業の中でじっくりと考え、それを伝えたり友達の考えを聞いたりしながら、自分の生き方を深める機会となったのではないかと思います。

生徒の活躍をお知らせします

○１年生の３名がジュニアリーダーとして地域で活躍しています。

池戸琴音さん　　海東壱季くん　　佐藤史華さん

○２学年で応募した「税の標語」にて、２名の生徒の作品が表彰されています。

優秀賞　ムスタディートリッヒくん　「納税は　愛ある社会を　築く道」
佳　作　増川愛理さん　「消費税　未来のために　納めよう」

○大会等で練習の成果を発揮し、表彰を受けた部活動を紹介します。

バドミントン	岩本莉奈さん	練馬区中学校生徒総合体育大会	女子ｼﾝｸﾞﾙｽ	第１位
		東京都中学生練馬区冬季大会	女子ｼﾝｸﾞﾙｽ	第１位
		東京都中学生Ｂブロック大会	女子ｼﾝｸﾞﾙｽ	第３位

先生方の座右の銘を紹介します

４月に生徒会主催で行われた対面式で、１年生に向けて教員一人一人から「座右の銘」が発表されました。校内に掲示するとともに、学校便りでも紹介しています。

Impossible is nothing　～不可能はない～

３学年　安井もえ子

私はできない自分が嫌いです。そして、不可能に思えたことにチャレンジして、不可能を可能にしていく過程が好きです。

この言葉はスポーツメーカーのアディダスのキャッチコピーです。この言葉に出会ったのは大人になってからですが、あまりの強さに衝撃を受けました。同時に自分はずっとこの言葉通りに生きてきたと思えました。

私が大学を卒業したのは「超氷河期」と呼ばれ、就職状況が極めて厳しい時代でした。教員の採用状況も非常に厳しく、ほぼゼロに近い状態でした。当初、私は企業に就職が決まっていたのですが、「どうしても教師になりたい」という思いを抑え切れなくなり、卒業直前に内定を辞退することに決めました。応援してくれた人達もいましたが、特に父親からは「教師になんて絶対になれるはずがない」と強く反対されました。それでもまずは講師になり、正規の教員を目指すことにしました。道のりは厳しく、数年かかりましたが、採用試験に合格し、念願の教師になることができました。あんなに激しく反対していた父が、「本当に夢を叶える人っているんだな」と誰よりも喜んでくれたことが一番嬉しかったです。

困難に陥ったときはいつもこの言葉を思い出します。これより強い言葉はないと思っています。「不可能はない」と思えると、いろいろなことにチャレンジしたくなります。吹奏楽部の顧問になったことをきっかけにクラリネットを始め、今では人生の一部になっていたり、英語以外の外国語にも興味があり、スペイン語の勉強をしたりしています。そして生徒に向けて卒業アルバムの寄せ書きを書くときには、いつもこの言葉を書きます。今年の卒業生にもこの言葉を贈るつもりです。

『本気』

２学年　干野　京子

『本気でやれば大抵のことはできる。本気でやれば何でも楽しい。本気でやれば誰かが助けてくれる。』

この言葉に出会ったとき、まさにその通りだなぁと思いました。私は大学入試の時も教員採用試験の時も倍率がすごく高くて最初は無理だと思いました。でも絶対に夢を叶えたくて本気で頑張りました。すると出来なかったことがどんどん出来るようになり、分からなかったことが分かるようになり、実技の練習も勉強も楽しいと思えるようになりました。周りの人も応援してくれて辛い時も頑張り続けることができました。

生きていると「もう無理だ！」と逃げたくなってしまうことばかりです。でも私は本気でやれば大抵のことはできること、本気でやれば何でも楽しいこと、本気でやれば誰かが助けてくれることを知っているので、困難に立ち向かうことができます。一緒に困難を乗り越えてくれている生徒たちや先生方、いつも応援してくれる保護者の皆様や地域の方々、心の支えになってくれている家族や友達、感謝の気持ちでいっぱいです！

思い立ったが吉日

１学年　須貝　友貴

「先生の座右の銘は何ですか？」という質問を受け、正直な話、自分の座右の銘は何だろうと考えました。自分のこれまでを振り返ってみると、割と自由にやりたいことをさせてもらえていたように思います。ただ、それと同時に面倒くさいことからは逃げていたようにも思います。自由という言葉は裏を返すと責任を自分でとらなければならないということでもあります。自分が目の前のことから逃げた結果、後々になってやっておけばよかったな。と後悔するのも自分でした。思い返せばたくさんあります。この言葉を見つけた時そんなことを思い出しました。

それからこの言葉を改めて意識するようになって、今でも面倒くさがりな部分は相変わらずありますが、少し自分の中の行動や習慣が変わっているような気がします。実際に即行動に移してみると、テンポよく物事が進んでいきました。取り組むことが楽しくなってきたりもしました。やってみて失敗したこともありましたが、それは今後につながるものであることにも気づくことができました。自分の座右の銘はこれか。と気づきました。

皆さんもやらなければならないことで頭がいっぱいになったりする時があると思います。まずはどんな小さなことからでもいいので、思い立ったら行動です。これをやろう！と思った日が吉日ですよ。

七転八起

副校長　今井　康夫

「何度失敗しても、そのたびに奮起する」という意味です。「人生うまくいくことばかりではなく、同じくらいにうまくいかないこともある」そんなことも表しているかもしれません。でも、なぜか転ぶ回数よりも起きる回数の方が１回だけ上回っているのが好きです。

私は大学受験で地元の大学の推薦受験に挑戦して失敗しました。担任の先生から残念な結果だったことを知らされた場面は今でも鮮明に思い出せるほどショックでした。でも、今ではこの失敗のお陰で得られた気付きもあり、良かったのだと肯定的に捉えています。気付きとは、「どこかで受験をなめていた自分」や「挫折した人の気持ち」です。また、この失敗を機に、より高みを目指して志望校を変えて挑戦し、運もあって合格することができました。

また「失敗からの奮起」とは少し違いますが、思いがけない困難から気付いた事もあります。

教員になり、結婚してすぐに大切な人の病気が分かりました。そこで初めて気付いたのは、私達が普段何気なくする会話の中には、その病気の当事者をひどく傷つけている表現があるということです。かといって、当事者がそのことを相手に伝えるのはなかなかできないものです。だから、色々な事を経験してみないと、悪気はなくても知らないうちに人を傷つけているかもしれないのです。今、自分は少なくとも同じ言葉で人を傷つけることはせずにすみます。だから、辛い経験がきっかけではありますが、知ることができて良かったと思いますし、まだまだ他にもたくさん知っておくべきことがあるはずだとも思っています。

誰でも転びたくはありません。当然目標に向けて努力することが大前提です。一方で、転んで初めて気付くこと、転ばないと気付けないことも、世の中にはたくさんあります。ということで、私はこれからも自分の目標を実現させるための努力はしつつ、人生良い事ばかりとは限らないことを肯定しながら、例え転んでも前向きにいこうと思います。